

b P S 演習④⑧ K J 法 & ポスターセッション

K J 法とは？

「K J 法」の創始者は文化人類学者・川喜多二郎氏です。意見やアイデア、情報をたくさんカードに書き出して、問題点や解決策を次第に明確にさせる方法です。問題解決の糸口がみつきにくいものや、たくさん情報を収集・整理したいときによく使われています。書き出すカードは質より量、つまり内容を深く詰めた妙案1つより、思いつきのアイデア10個がよい、というのがこのK J 法を楽しくするコツになります。

準備物

ふせん、マジック、模造紙

テーマ「武生高校生の家庭学習時間を増やすには？」

【K J 法 & ポスターセッションの進め方】

- ① 1枚のふせんに1項目（1アイデア）を書く。自由なアイデアをたくさん出す。
質より量です！ ふせんは模造紙にはりつけ、みんなが見えるようにする。
- ② 共通点のあるふせんをグループ（3～4）にまとめ、タイトルをつける。グループに
しづらいものは、そのまま置いておく。模造紙にまとめ、タイトルも模造紙に書く。
- ③ ②からテーマに対するグループの意見をまとめ、模造紙に書く。
- ④ ポスター発表をする。グループを半々に割り、一方はポスター発表をし、
もう一方は他のグループのポスター発表を聞く。

b P S 演習④⑧ 振り返り

演習④⑧ルーブリック

学習活動	K J 法を学びながら、テーマに対して自由な意見をたくさん出し、グループで意見をまとめ、ポスター発表をする。
期待以上 (S)	K J 法を理解した上で、テーマに対して自由な意見をたくさん出し、グループで意見をまとめ、ポスター発表で論理的に説明したり、他のグループの発表をしっかりと聞くことができる。
十分満足 (A)	K J 法を理解した上で、テーマに対して自由な意見をたくさん出し、グループで意見をまとめ、ポスター発表で説明したり、他のグループの発表を聞くことができる。
おおむね満足 (B)	K J 法を理解した上で、テーマに対して自由な意見をたくさん出し、グループで意見をまとめることはできるが、積極的にポスター発表に参加することはできない。
努力を要する (C)	K J 法を理解できるが、実際テーマに対して自由な意見をたくさん出したり、グループで意見をまとめたりすることができない。

**振り返りと自己評価は Web で入力するため
テキストに記載欄はありません。**